

市民タイムズ

まず第一に、台湾のJCとの提携関係という選択がよい。今年は、日中國交二十周年で日本双方が様々な慶祝行事を行う予定であるが、それは同時に日台断交の二十周年でもあるから、台湾との将来の関係をどのように再構築していくべきかとい

んで第三位を競い合っており、もとより、日中貿易よりも日台貿易の方が大きく、人の交流も中国よりも台湾の方がずっと多い。しかも台湾の人びとは大変親日的である。

「このよう^に重要なパートナーであるにもかかわらず、政府間の国

スに乗り遅れるな」とばかりに官民をあげて中国との姉妹関係提携がブームになったことであった。姉妹都市関係も相次いだが、中国側と日本側との思惑の違いや体制の違いから様々な摩擦やトラブルも生じはじめ、かつて私は地方自治協会の依

松本JCの快挙

の交流に関心を寄せているが、一時期は、「バ

であり、風光明媚にし
て、きわめて個性豊か

いう点でも、李統統に及ぶ学者は少ないであります。

總統御夫妻にして、
このような雰囲気を
つ今日の新しい台灣

松本 J C

じの快挙

藝術を愛される人格者であり、たとえば西田哲学についての造詣と

イネ・ナハト・ムジ
ク」を弾かせていた。
いた。

一月七日付『市民タイムス』は、松本青年会議所（JC）が台湾の台南女子青年会議所と来る五月に姉妹関係を結び、「アジアの時代」の国際交流に努めることになったと報じていた。

く変わった。台灣は
いわゆるアジアNIE
の中でも、もっとも
安定的に著しい経済的
・社会的発展を遂げて
いるばかりか、最近で
は李登輝統のリーダー^{シップ}のもとで政治
改革と民主化も大いに

専門による「よく気がつき」つあるが、このような欠落を埋めることこそ、JCOのような民間団体がなすべき「民際」外交の重要な課題だとえよう。

第一は、台南という都市の選択である。松本が古い城下町であるように、台南は十七世紀初めのオランダ統治時代に築城されたアプロビデンシア城(赤嵌樓)という城郭をもつ古都

いる。この正月には旧知の李登輝總統の御家族やごく親しい友人だけの總統誕生パーティーに招かれ、翌日は總統御夫妻と私ども夫婦だけで一泊、日月潭に遊んだ。クリスマスの總統御夫妻は学問と

新古典改造四重奏団
私のために呼んで下さ
れ、台湾の蒐集家

七
望岳山記

う重要な問題に私たち
は直面している。しか
も、この二十年間に台
湾をめぐる情勢は大き

交がないために、これまで日本交流にも様々な制約があった。日本政府・外務省もこの

頼で私が秘書長になつて訪中団（団長・山野幸吉氏）を組織し、実情調査を行つたことも

らの文化人、金森久雄、
飯田経夫、高坂正寿氏
らの学者の参加を得て
台湾との交流を重ねて

宅に招いて下される
といった、音楽愛好家
もある。今回も、お
での夕食後に、台湾の

つあるが、JJCのやくざりぎつ
欠落を埋めることこそ
そ、JJCのような民間
団体がなすべき「民際」
いえよう。
わが国では、長崎J
Cなどが台湾や香港と
の交流に関心を寄せて
いるが、一時期は、「バ
スに乗り遅れるな」と
ばかりに官民をあげて
中国との姉妹関係提携
がブームになったこと
もあった。姉妹都市関
係も相次いだが、中国
側と日本側との思惑の
違いや体制の違いから
様々な摩擦やトラブル
も生じはじめ、かつて
私は地方自治協会の依
託によるやくざりぎつ
都市の選択である。松
本が古い城下町である
ように、台南は十七世
紀初めのオランダ統治
時代に築城された「プロ
ビデンシア城(赤嵌樓)」
という城郭をもつ古都
である。

いるこの正月には旧知の李登輝總統の御家族やごく親しい友人だけの總統誕生パーティに招かれ、翌日は總統御夫妻と私ども夫婦だけで一泊、日月潭に遊んだ。クリスチャンの總統御夫妻は学問と芸術を愛される人格者であり、たとえば西田哲学についての造詣という点でも、李總統に及ぶ学者は少ないであろう。

かつて「アジア・オーラム」第一回会議のとき、たまたま才能教育研究会の指導者石川裕子さん（鈴木鎮一先生の姪で、私と松本音楽院同期生）が公演で台北を訪れていたので、總統に御紹介したところ、その日の午後直ちに總統

新古典改造樂四重奏團
私のために呼んで下され、台灣の蒐集家の手になるストラディバリのヴァイオリンを用意して下さったので、私も御相伴にあがつて、「トロイメライ」と「アイネ・クライネ・ナハト・ムジク」を彈かせていたいた。
總統御夫妻にしてこのような雰囲気をなつ今日の新しい台灣、けに、私たちは、もとも近くもつとも親的な外国としての台との関係をいま一度考すべき時期でありそれだけに松本J.C.快挙は、私にとって大変嬉しいことで大変嬉しいことで

飯田経夫、高坂正義氏らの学者の参加を得て、台湾との交流を重ねて、この正月には旧知の李登輝總統の御家族やごく親しい友人だけの總統誕生パーティに招かれ、翌日は總統御夫妻と私ども夫婦だけで一泊、日月潭に遊んだ。クリスマスチャンの總統御夫妻は学問と芸術を愛される人格者であり、たとえば西田哲學についての造詣という点でも、李統暉に及ぶ学者は少ないであろう。

かつて「アジア・オーパン・フォーラム」第一回会議のとき、たまたま才能教育研究会の指導者石川裕子さん（鈴木鎮一先生の姪で、私は松本音楽院同期生）が公演で台北を訪れていたので、總統に

新古典改楽四重奏団手によるストラディバリのヴァイオリンを用意して下さった。私も御相伴にあつたので、私は御相伴にあつて、「トロイメライ」と「アイネ・クライネ・ナハト・ムジク」を弾かせていただいた。

總統御夫妻にして、このような雰囲気を持つ今日の新しい台湾だけに、私たちは、もとも近くもつとも親的な外国としての台との関係をいま一度考すべき時期であり、それだけに松本J.C.快挙は、私にとって大変嬉しいことで、